

完封連勝 “大学頂点”へ好発進

「ムロオ関西大学ラグビーAリーグ」が7日に開幕し、天理大学ラグビー部は同日、天理親里競技場で摂南大学と対戦。64・0の大差をつけ完封で勝利し、創部初のリーグ5連覇、さらにその先の日本一へ向けて好スタートを切った。

昨年、関西リーグ4連覇を達成した同部。続く大学選手権の準決勝で早稲田大学に惜敗、ベスト4に留まった。

再び「日本一」を目指して始動した新チーム。8月に新型コロナウイルスの集団感染に見舞われて、一時は活動を休止したものの、9月10日に練習を再開。以後、「オフのときでも天理市内から出ない」などの申し合わせを徹底している。

今年度の関西リーグは、まず4チームずつの小リーグごとに対戦したうえで、各リーグの同順位同士が対決し、最終順位を決める方式。同部は10月11日から行われた、前哨戦となる交流試合で、3戦全勝と勢いをつけ、7日の摂南大学とのリーグ初戦に臨んだ。

試合は天理大ボールでキックオフ。前半2分、敵陣22ライン付近から

松永拓朗選手（4年）が相手ディフェンスの裏にキックし、拾い上げたシオサイア・フィフィタ副主将（同）が、そのまま走り込んでトライ。ゴールも決まり、7・0と先制する。

その後、9分にラインアウトからモールでトライ。35分にはゴール前ラックから展開し、すばやくパスをつないでトライ。FWとBKが一体と

なつて多彩な攻撃を仕掛け、19・0で前半を折り返す。

勢いに乗った天理大は後半、スクラムの安定感や走力、展開力などの強みを発揮して、トライを量産。結果、64・0で完勝し、リーグ5連覇、その先の大学頂点に向けて好発進した（写真）。

小松節夫監督（57歳）は「まずは、さまざまな方のおかげで、この場に立てたことに感謝申し上げます。試合内容はミスもあったが、無失点に抑えられたのは一つの成果だと思う。目標は変わらず日本一。まだまだ課題も多いが、少しずつ経験

を重ねて、この先の試合も頑張っていきたい」と語った。

この試合、けがの療養のため欠場した松岡大和主将（4年）に代わってゲームキャプテンを務めたフィフィタ副主将は、「大学や地域など、サポートしてくれた多くの方への感謝の気持ちを胸に試合に臨んだ。試合中、自分たちのラグビーがでない時間帯もあったが、チームで声をかけ合い、後半には修正できた」と話した。

◇ 15日、同部は近畿大学

との第2節に臨み、50・0で勝利。完封で2連勝を飾った。

また、同部の活動再開の様子は、11月中旬、NHKの地域情報番組「ならナビ」と「ニュースほっと関西」、そして全国放送の「おはよう日本」でも、それぞれ紹介された。

番組内で松岡主将は、「つらい日々を、応援してくださる方々のおかげで頑張ることができた。感謝の気持ちだけでは足りないので、『日本一』という形で恩返しをしたい」となどと話していた。



天理大ラグビー部